



◆当面する重点作業について

1. 害虫や果実腐敗病等、病害虫の越冬量を少なくするため園内の清掃を行う。
落葉は集め焼却するか、土中に埋める。落果した果実は、土中に埋める。
2. せん孔細菌病対策の徹底をする

◆基肥の施用について

1. 施用時期:10月下旬～11月初旬
※施用時期が遅れると、生理落果・核割れ・徒長・遅伸びにつながる。
2. 施用資材及び施用量
 - 1) グリーン長野果樹専用有機入り72 ⇒ 10a当り4袋
 - 2) 果樹の力 ⇒ 10a当り2袋
3. 留意事項
 - 1) 徒長枝の多い若木や樹勢の強い樹は、グリーン長野果樹専用を減らすか施用はしない。
また、落葉が長引き一斉でない樹も施用量を減らす。
 - 2) 施肥後は軽く中耕する。(軽くとは5～6cmの深さ)
※草生栽培園は中耕しなくても孔隙があり、肥効が高く出る。
 - 3) 堆肥等を使用する場合は、窒素分量を計算し、グリーン長野果樹専用の施用量を減らす。
 - 4) ネクタリンは強めの樹勢維持のため、グリーン長野果樹専用有機入り72を2割(10a当1袋)程度多めに施用する。
 - 5) 土壌pH(酸度)が高く中性に近づいている園が散見される。適正範囲内でないと欠乏・過剰症の発生、根の張り不足等問題となるため、pHが高い場合は石灰質資材(サンライム・醗酵けいふん等)の使用を見合わせる。また、明らかにPHが高い場合は、基肥施用に併せて、ガッテンペーパー10a当り5袋を樹冠下中心に施用する。可能な場合(根を傷つけない)は、軽く耕耘をし、土と混和する。